

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 17 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520730

研究課題名（和文） 「リーバアマン文庫」研究

研究課題名（英文） Study on the library of Felix Liebermann

研究代表者

有光 秀行（ARIMITSU HIDEYUKI）

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：80253326

研究成果の概要（和文）：フェリックス・リーバアマンの旧蔵書で、東京大学図書館のオンラインカタログ上で「リーバアマン文庫」としては未登録の文献 100 点あまりを発見した。それらとあわせ、上記オンラインカタログで登録済みの文献すべてについて、献辞の有無や、書き込みの状況を調査した。ハインリッヒ・ブルンナーやヒューバート・ホールといった著名な学者たちとの知的交流や、中世史研究のみならず、第一次世界大戦など同時代の世界情勢に寄せる深い関心が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：I have found over one hundred books and booklets that have not included in the OPAC of the Library of Tokyo University as the items of the Library of Felix Liebermann. Including them, I have checked dedicatory messages and written notes of all books and booklets of the Library of Felix Liebermann. This research has revealed that Liebermann had intellectual contacts with great scholars like Heinrich Brunner and Hubert Hall, and that he had deep concerns on the contemporary political and social circumstances like the World War I.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：史料研究

1. 研究開始当初の背景

フェリックス・リーバアマン Felix Liebermann (1851-1925) はユダヤ系ドイツ人の歴史研究者であり、その出自から大学に職を得ることはできなかったが、富裕な家産に支えられておこなった研究の水準の高さは他にぬきんでていた。彼の主著は、12 世紀以前のイングランド法を編纂し解説を付した、

『アングロ・サクソン法』(1903-16) である。出版後 100 年を超える今もなお、歴史学の論文で初期のイングランド法が引用されるときには、リーバアマンのこの書物からなされるのが通例である。そのことは、学界のこの書物への評価を何より雄弁に物語っている。さて、リーバアマンの蔵書は彼の没後、第一次大戦の賠償金を利用して東京帝国大学（当

時)に納められ今日に至っている。しかもこの蔵書には、リーバアマンの思索のあとを示す書き込みが多く残されている。このことは、外国の研究者にはほとんど知られていない。報告者は、2008年7月16・17日にロンドン大学の歴史学研究所で開催された国際シンポジウム「初期イングランド法：フェリックス・リーバアマン『アングロ・サクソン法』出版百年記念コンファレンス」に参加し、「東京のリーバアマン Liebermann in Tokyo」の標題で、「文庫」の概要などについて把握している限りのことを報告した。その準備のため、「文庫」の予備的調査をおこなう中で明らかになったのは、「文庫」の基礎情報そのものがきちんと整理されていないことである。現在「文庫」を知る手がかりは、1937年に作成された、「文庫」受け入れ時のカタログと、東京大学総合図書館のオンライン・カタログで「リーバアマン文庫」と入力した際に列挙される文献群である。しかしこの双方に問題がある。前者は、1762点の「パンフレット類」があると記すが、その一点一点が何かは明らかにしていない。しかしこれらのほとんどはリーバアマンに送られた抜き刷りで、彼の知的ネットワークを知る上で不可欠の情報源である。一方オンライン・カタログは、この抜き刷り類のそれぞれを具体的に挙げるが、1937年カタログや書き込みなどから明らかにリーバアマンの旧蔵書であることがわかるのに、「リーバアマン文庫」という押印のないものは無視しているため、網羅的なものとはなっていない。

2. 研究の目的

こうした状況に鑑み、まずなされるべきは、どのような書物および抜き刷り類が「文庫」を構成していたかを正確に把握することである。

さらに、扉への献辞や、書き込みの状況などから、リーバアマンの知的な世界を具体的に再構成する。

3. 研究の方法

東京大学総合図書館に、書庫を中心に納められている「文庫」(現在利用できるカタログに明記されないが「文庫」に含まれると思われる文献をふくむ)に一点一点あたって、どのような書物および抜き刷り類が「文庫」を構成していたかの情報を収集する。その際、扉に書き込まれた献辞などの情報、本文中への書き込みの有無・多寡にも留意する。

4. 研究成果

平成22年度は、「文庫」既登録のドイツ語文献約430点にあたるとともに、未登録であったものを約80点あらたに発見し、これらについても内容を調査した。フーゴー・プロ

イス、ルートヴィヒ・リース、ハインリヒ・ブルナー、ハロルド・ヘーゼルタインといった著名な学者たちとの知的交流や、ヴィルヘルム・ヴァッテンバッハら先学の著作の研究ぶりを具体的に知ることも出来た。

本報告書の紙幅ではそれらすべての情報を具体的に示すことは不可能なので、あらたに発見した文献の中から、ひとつの例を紹介する。これは、リーバアマンがさまざまなところで発表した論文や書評、また関連文献を、自らの著作とひとつに製本しなおした特別版の書物もあり、そこに見られる書き込みと合わせ、ひじょうに貴重なものである。(東京大学図書館分類番号 G650:462, *Anglo-Norman. Quellen.*) この文献には「リーバアマン文庫」印が押されているが、現在東京大学図書館のOPACの分類では「文庫」にふくまれていない。また、この本の見開き部分には、'F. Liebermann/Font Agnorm 30' というリーバアマン自筆の書き込みが見られる。これは、自分の蔵書であることを示すサインと、彼独自の分類番号である。Font Agnorm 30は「アングロ・ノルマン時代の史料 30番」を示している。

この文献には、これもおそらくリーバアマン自筆の、次のような目次が、貼付されている。

- I Anglonorm. Gq
- II Leges Hei I
- III Reise 1877
- IV Biblioth. Engli S
- V Cambridger ...ss
- VI Heinrich v Avranches Koelnisches
- VII Kritiken bei Sybel
- VIII Huntingdon
- IX Damler Quam
- X Hoh v Avranches an Frie II
- XI Vorwort zu Leges Henrici I

I は Ungedruckte anglo-normannische Geschichtsquellen というリーバアマン自身の代表的な著述のひとつである。書き込みの多い個所がいくつかあり、たとえば、中世イングランドの著述家エドマーによる聖アンセルムス奇蹟譚を紹介する第15章では、本文自体の訂正や、新しい参考文献についての書き込みなどが見られる。また内容に関連する新聞、もしくは雑誌の記事を添付した個所もあり(224ページ)、著書公刊後も、その内容をアップデートしたものとすべくリーバアマンが気を配っていたことがわかる。

II は Die abfassungszeit der Leges Henrici I というタイトルで発表されたリーバアマン自身の雑誌論文の抜き刷りだが、最終ページのあとに、中世の法学者グラティアヌスと「ヘンリ1世の法」のかかわりを論じた手書

きの紙1枚が付されており、さらにそれを含め、全体のページ中央部に上から下まで、エンピツでの線引きがなされている。(この線引きは、リーバアマンのメモ書きによく見られるものであるが、その意味はよくわからない。)

III は *Reise nach England und Frankreich im Herbst 1877 / von G. Waitz* であり、*Neues Archiv* 誌 (?) IV の抜き刷りである。

IV は *Handschriften im Englischen u. Schottischen Bibliotheken (Fortsetzung) : Beilage zu dem Bericht über die Reise nach England / von G. Waitz* であり、III の付録である。

V は *Nachrichten über einzelne Handschriften (Fortsetzung zu S. 42)* で、III の続編である。

VI は *Vier Gedichte des dreizehnten Jahrhunderts / von Ed. Winkelmann* という雑誌論文の抜き刷りである。

VII はリーバアマンが歴史学の雑誌に発表した書評6編である(OPACの説明は現在のところ不十分である)。

VIII は *Heinrich von Huntingdon* という、リーバアマン自身が執筆した雑誌論文の抜き刷りであり、I や II と同じく、多くの書き込みや、添付のメモ書きがある。

IX は *Zur Sittengeschichte des Mittelalters / von E. Dummler* という雑誌論文の抜き刷りで、著者がリーバアマンの教示に感謝している個所がある。

X は *Reisefrüchte aus Italien und anderes zur deutsch-italischen geschichte / Ed. Einkelmann* で、やはりリーバアマンへの言及がある。

(XI については不詳)

また上記の目次に含まれていない短い書評や、リーバアマンへの謝辞を含む史料紹介もこの本には貼付されており、リーバアマンの資料整理法的一端を具体的に示すものもなっている。

23年度は、「文庫」既登録のドイツ語文献ほぼすべてにあたるとともに、未登録であった資料30数点もあらたに発見し、内容を調査した。特に、リーバアマンの知的交流や、第一次世界大戦に関する彼の考えを知る上で貴重な情報を含み持つ資料、たとえばユリウス・ハットシュック著『イングランド人の国家観』やフーゴー・プロイス著『世界大戦、民主政、ドイツの革新』、スチュワート・チェインバレン著『誰が戦争を引き起こしたか?』、ローレンツ・モースバッハ著『イングランドとイングランドの危難』などを発見できたことはおおきな収穫であった。

24年度は、ハンガリー語、オランダ語、ノ

ルウェー語、オランダ語、イタリア語文献の調査をおこなった。さらに、これまでの調査でチェックできなかった項目や見いだせなかった文献の再調査をおこない、現時点で可能な限り網羅的に、「リーバアマン文庫」を構成する諸文献についてのデータを獲得した。特に今年度の調査では、これまで未見であったヒューバート・ホール関連の史料を検討できたことが大きい。(東京大学図書館分類番号 Q000:222, *The red book of the exchequer : a reply to Mr J. H. Round / by Hubert Hall*, London : Spottiswoode, 1898) これは50部しか印刷されなかった珍しい私家版で、ホールの編纂した『財務府の赤本』に対するジョン・ホレス・ラウンドの辛辣な書評へのホールの反論、および当のラウンドの書評と、関連するホールの別の抗議文をあわせて製本されたものである。『財務府の赤本』はリーバアマン自身もよく知る史料であり、彼はホールのテキストに、ホールとラウンドの見解に対する意見を随所に書き込んでいる。ホールがリーバアマンにこの私家版を送ったこと自体とあわせ、当時の中世イングランド史学界を考える上で貴重な史料である。(ホールがリーバアマンに送った抜き刷りは「文庫」に多くあり、両者の知的交流もさかんであったことがうかがえる。)

なお、未登録本の判別手段について述べておくが、例えば、

A500:118 (東京大学図書館の分類番号)

Rules of The British Numismatic Society

London : Harrison, 1904

には、第一次世界大戦ののちドイツからの賠償金で購入した旨を記した印(「大蔵省賠償金特別会計所属図書」印)および数字の印(この場合は「1989」)が押されている。一方、これらの印に加えて、登録済みの文献に見られる「リーバアマン文庫」印は、これには付されていない。一方、この文献の形態および「1989」は、「文庫」の受け入れ・価値算定時に作成された1937年カタログの分類番号「1989・パンフレット類」と一致している。これらのことから、何らかの理由で「文庫」印が押されていないものの、この文献はリーバアマンの旧蔵書に含まれていたものであることがよく推測される。さらにこの文献の場合は、表紙に「F. Liebermann Ant Brit 35」との書き込みがある(Ant Britはおそらく「古代ブリテン」の意味)。そのため、これが「リーバアマン文庫」に含まれていることはほぼ確実と言えるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有光 秀行 (ARIMITSU HIDEYUKI)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：80253326

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし